地域の農業と農地、家族の絆で守る

農業法人を設立、地域の担い手に

家族の絆でがんばる百姓屋あしだ。右から蘆田圭介さん、奈月さん、翔永さん、孝公さん、農業委員の荻野さん

丹波市　百姓屋あしだ

【兵庫】県東部に位置する丹波市青垣町の農業法人「㈱百姓屋あしだ」代表取締役の蘆田圭介さん（59）は、水稲を中心に小豆、黒豆など約22㌶を経営している。

もともとは兼業農家として2・2㌶を経営していたが、地元の営農組合が高齢化・担い手不足で解散することになり、農業委員からの声がけもあって、2025年1月に弟で取締役の孝公さん（51）、長男の翔永さん（33）とともに農業法人を設立した。

圭介さんの妻・美恵子さんと翔永さんの妻・奈月さんも農作業を手伝い、「家族の絆」で地域の農業・農地を守っている。

丹波市では24年度末までに93の地域計画を策定。本格的なスタートを切る25年度に際して、蘆田さんたちの取り組みは明るい話題となっている。

蘆田さんに声がけした農業委員で青垣地域委員長の荻野一喜さんは「地元の営農組合が解散すると聞いて大きな危機感を持っていたが、蘆田さんが家族とともに農地を引き継いでくれて感謝している。若手の翔永さんもメンバーに加わり、地元の期待も大きい」と語る。

大阪・神戸からのアクセスに恵まれた丹波市は、自家農園を営む移住者や新規就農者が多く、農業への明るい兆しも感じられる。蘆田さんは「家族の絆を生かし、農家から預かった大切な農地を守っていきたい」と抱負を語った。

（山口昭彦）

女性委員が府内最多6人に

京都市農業委員会

前列左から星野佐紀子委員、今井澄子委員、樹下ちえ子委員、後列左から久保幸恵委員、阪本純子委員、中井桂子委員

【京都】女性農業委員の登用に力を入れている京都市では、今年4月から女性委員が1人増えて府内最多の6人になり、農業委員（21人）に占める女性の割合も府内最高の29％になった。

今回の改選では、JA京都市推薦の今井澄子委員と樹下ちえ子委員、JA京都中央推薦の久保幸恵委員と星野佐紀子委員、中立委員で京都府中小企業診断協会推薦の阪本純子委員が再任されたほか、新たに京都乙訓地域農業士会が推薦した中井桂子委員（京都府指導農業士）が選ばれた。

中井委員は「初めての経験ですが、先輩委員に教えていただきながら、小学校の食育活動などに農業士としての経験を活かしてがんばりたい」と抱負を語る。

京都市で府内初の女性委員比率約3割の達成を受け、来年度の統一改選に向けて、各市町村で女性委員の登用に弾みがつくことが期待される。

（会沢仁史）

県産農産物の魅力PR

児童らに梅提供、出前授業も

和歌山県と県教育委員会

【和歌山】県は県教育委員会と合同で、県内の国公私立小学校や特別支援学校に県産農産物を提供している。農業への理解促進と、郷土愛や食に関わるすべてのものに対する感謝の気持ちを育むことが目的だ。

6月5日から18日にかけては、県内224校に梅を提供。梅は2013年度から学習用教材として提供され、児童はジュース作りを体験する。

そのうち7校では、県職員による出前授業を実施。梅の生産状況や特徴などについて児童に説明した。

事業を担当する県果樹園芸課の中口沙紀さんは「天候不良により近年は梅の出荷量が減少しているが、梅は和歌山県を代表する農産物。子どもたちが県産農産物に親しみを持つきっかけになってほしい。また、自分たちで作った梅ジュースを飲んで、暑い夏を乗り切ってほしい」と話す。

（鹿嶋俊宏）

6月11日に橋本市立柱本小学校で行われた出前授業

青年委員奮闘中

▷34

大津市　森元直紀さん

農業盛り上げる期待の担い手

関係機関と連携、地域計画作成に尽力

【滋賀】大津市和邇の森元直紀さん（36）＝写真＝は、農業委員として積極的に地域計画の作成に取り組んだ。

森元さんは、35㌶の経営規模で米、麦、大豆、ブロッコリーを栽培する地域の担い手だ。農業委員に就任して今年で5年目で、前任の農業委員からの声がけがきっかけで就任した。

「南浜地区では農業用揚水ポンプの改修時期が迫り、地域計画の策定が必要だった」と森元さんが先導して、JAや県、市と連携し、地域に呼びかけた。「お互いの目標が合致していたので、連携するのは難しくなかった」と話す。

地域計画づくりへの話し合いの場として、コロナ禍で中断していた和邇学区内での農業組合長会議を復活させ、説明会を実施し、6地区で地域計画を完成させた。隣接の伊香立地区の話し合いにも参加し、作成手順や事例を発表して、地域計画の作成を促した。

森元さんはこれからについて「農業は若手不足。新規就農者がいれば和邇学区内で共有して助け合い、地域の農業を盛り上げたい」と語る。

（福井かれん）

就業・就農を積極的に支援

26日に「農のマッチングフェア」

奈良県農業法人協会

【奈良】「農のマッチングフェア（マイナビ農林水産FEST・奈良県特設ブース）」が7月26日、奈良県農業法人協会（山口貴義会長）の主催で、大阪市「マイドームおおさか」で開催される。

県内での就農に興味のある人を対象に、農業への就業や就農に関する説明会と個別相談会を行うもので今回が本年度の1回目。県や県農業会議、日本政策金融公庫奈良支店、県農業経営・就農支援センターが後援して取り組んでいる。

県内農業法人と行政などがブースを設置し、経営概要、業務内容、栽培作物、新規就農に向けた取り組み、補助金制度を紹介し、県内で就農するイメージを伝える。

大阪市で開催しているFESTに出展することで、県外からの就農者獲得をめざす。

参加費は無料で予約も不要。問い合わせは、「農のマッチングフェア」運営事務局（☎0742・27・7419）まで。

（木村将史）

「農のマッチングフェア（マイナビ農林水産FEST・奈良県特設ブース）」の開催チラシ

おいしい食材を届けたい

脱サラして夫婦で新規就農

能勢町　後藤眞吾さん

7月に初の収穫を迎えるメロン畑で

【大阪】「今まで経験した仕事の中で一番楽しい」と話すのは、能勢町の農地約25㌃でメロン、ソラマメ、トマトなどを生産する後藤眞吾さん（46）。元IT関係の会社員で、昨年3月に独立就農した。

元々料理が好きな眞吾さんは「食材そのものを作りたい」という想いが強くなり、就農を決意。脱サラして大阪府立農業大学校での研修を経て、妻の明日香さん（37）と「アスカファーム」をスタートした。

「在学中にメロン栽培に詳しい恩師と出会えたことが作目を決める契機になった」と眞吾さん。現在、メロンは病害抵抗性に優れるアールスヴェルダとアールスヴェロッサの2品種を栽培している。

まずは経営の安定化に集中したいとしつつ、「近隣のイチゴ農家さんとコラボしてスイーツの販売や体験農園もやりたい」と眞吾さんと明日香さんは笑顔で話す。

（林佑一郎）

近畿

近畿総局
京都府農業会議
京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104・2 府庁西別館内
075・441・3660

滋賀県支局　077・523・2439
大阪府支局　06・6941・2701
兵庫県支局　078・391・1221
奈良県支局　0742・22・1101
和歌山県支局　073・432・6114